

# 生活者

生活と政治をつなぐ情報紙

# 通信

No.420  
2026.9.1

## 東京・生活者ネットワーク

発行 東京・生活者ネットワーク  
〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町2-19-13 ASK ビル 4 階  
TEL.03-3200-9189 FAX.03-3200-9274  
E メール tokyo@seikatsusha.net  
URL https://www.seikatsusha.me  
発行責任者 岩永康代  
定価 年間 1000 円・1 部 100 円 郵便振替口座 00130-3-18417  
毎月 1 回 1 日発行 1994 年 5 月 23 日第三種郵便物認可



### 生活者ネットワーク 3つのルール

1

#### 議員は交代制（ローテーション）

生活者ネットワークの議員は、交代制。議員を職業化、特権化せず、世代交代を進めることで参加の層を広げます。任期を終えた議員は、市民政治を広げるための活動や地域活動などに、その経験を活かします。

2

#### 議員報酬は市民の政治活動資金に

生活者ネットワークの活動はカンパで支えられています。議員報酬は、市民の政治活動資金に活かします。お金の流れは公開し、政治資金の透明化をはかっています。

3

#### 選挙はカンパとボランティアで

選挙は、政治に参加する入り口です。みんなでカンパ（カンパ）と知恵や労力（ボランティア）を出し合い、選挙を行います。

## 都政情報

■都議会第三回定例会：9月18日～10月8日。9月18日：知事所信表明、29日：代表質問、30日：一般質問、10月2日～6日：常任委員会、8日：討論・採決。

## 地域ネット

### 小金井ネット

井戸端ネット～HPVワクチンのデメリットについて知ろう  
9月19日(土)14:00～16:00 小金井・生活者ネット事務所内交流スペースふらりねっと（武蔵小金井駅） 042-387-1068

### 清瀬ネット

生活のお困りごと相談ください(毎月第3日曜日)  
9月20日(日) 14:00～16:00 清瀬・生活者ネット事務所(清瀬駅) 家計相談員が対応 無料・秘密厳守 042-494-8720

### 練馬ネット

「戦争はしない・原発はいらない」9条スタンディング(毎月9日)  
10月9日(金)12:00～13:00 練馬駅南口 主催：生活者ネット9条の会 03-3993-4899

### 葛飾ネット

なんでも相談会(毎月10日)  
10月10日(土) 10:00～12:00 葛飾・生活者ネット事務所(京成高砂駅) 03-5876-4757

### 稲城ネット

女性の困りごと相談会(毎月第2土曜日)  
10月10日(土) 13:00～ 稲城・生活者ネット事務所(稲城駅) 予約制 042-379-2435

### 練馬ネット

国際紛争と私たちの暮らし 日本国憲法を活かした外交で平和を  
10月31日(土) 14:00～16:00 石神井庁舎5階会議室1・2(石神井公園駅) 講師：猿田佐世さん(新外交イニシアティブ代表・弁護士) 500円(18歳以下無料) 03-3993-4899

生活者ネットワークは東京都内32の自治体にあり、都議1人、市・区議38人の女性議員とともにそれぞれの地域課題に取り組むと同時に、市や区をこえた「東京問題」には全体で取り組んでいます。

東京を生活のまち、安心・共生・自治のまちにするために発言を続けます。



障がいがある人や車イス移動の人も、多様な市民が集まった市民企画「みんなでクールシェア 出張ほっとするカフェ」（主催：練馬地域協議会）で。7月29日

「まず始める」ことは一歩前進です。ただ、現実的には「現在利用している事業所に時間を延長して居ることができる」かたちから始まると思われること、トイレ介

助など必要なケアはあるものの、基本「見守り」対応となるものと

ここで懸念するのは「居るだけの場所」にならないか、ということ

とです。この新規事業で、将来的には「この時間帯にプログラム等を実施する際の支援」なども求め、障がいの者の夕方の時間が、自由で開放されたひとときとなるよう、今後の事業育てに注目していきたいと考えています。

障がいの者にとって、家以外の「居場所」は、他愛のない会話などから楽しみ、学び、人生を豊かにする「幸福の追求」が尊重される空間、地域で暮らし続けていく上で大切な場です。そのような場になっ

ていくための工夫が必要です。引き続き、必要なことを聞き取り、伝え続け、他区市の先行事例（＊）なども学びながら、よりよい事業にしていきたいと思

います。今回開始する事業は、「夕方の時間帯において、主に日中活動系サービスを利用して

いる障がい者が気軽に過ごせる居場所を提供する事業所等に対し、安定した運営ができるよう、必要な人件費等を補助する」とするもので

あります。家族と過ごす時間が圧倒的に長い障がいの者本人からは、「家族以外の人と話がしたい」という切実な声もあります。

一歩前進！ 障がいの者が気軽に過ごせる居場所を提供する事業に補助

練馬・生活者ネットワーク ワーク区議会議員 山崎まりも



# 練馬発 障がいの者の「夕方の居場所」事業がスタート！

練馬区では、障がいの者本人の地域での暮らしと、家族の就労を支える新たな取り組みとして、9月から「夕方の居場所事業」が始まります。しくみの実際をレポートし、こうした支援を大きく育てるために解決すべき課題を考えます。

これまで、「障害福祉サービス事業所」は15時30分には終了と、早い時間のため、家族が帰宅するまでの間、障がいの者本人がどこでどう過ごすのか、課題となっていました。

一人家で過ごすのも不安、スリミングや買い物など余暇を過ごしたくても移動のヘルパーが見つからないなどで、結果、家族が仕事を早く切り上げ、本人と一緒に過ごす選択をしている方が

少なくありません。実際、「事業所で夕方まで過ごせたら、フルタイムの仕事もあきらめなくて済むのに」という家族からの声も多くあります。また、家族だけに支援が集中する状況は、親の高齢化とともに深刻な課題となっています。

助など必要なケアはあるものの、基本「見守り」対応となるものと。ここで懸念するのは「居るだけの場所」にならないか、ということ。この新規事業で、将来的には「この時間帯にプログラム等を実施する際の支援」なども求め、障がいの者の夕方の時間が、自由で開放されたひとときとなるよう、今後の事業育てに注目していきたいと考えています。



大するしかない。目下、衆議院の中道改革連合、参議院の立憲民主党と公明党の3党による合流あるいは提携に向けた議論が行われている。いわゆるリベラル派市民の中には、立憲民主党に独自路線を進むことを求める声もある。政権交代を諦めて、つまり自民政権の継続を前提として、鋭い批判の矢を放つ野党を作りたいのであれば、リベラル勢力の純化という道もあるだろう。しかし、それは日本政治にとって不幸なシナリオである。今の日本の議会では、少数者は無視されるに決まっている。

平和の確保、国民生活の支援のためにどのような政策が必要か、いま一度更地から議論を重ね、政権を荷える政党をつくる必要があると私は考える。



山口二郎 政治学者／法政大学法学部教授

政治を破壊する高市首相  
平和の確保、国民生活の支援のために  
必要なのは、政権を荷える政党をつくること



Information

ひとり芝居「天の魚(てんのいお)」

10月2日(金)昼の部14:00〜・夜の部19:00〜／3日(土) 19:00〜 座・高円寺2地下2階ホール(高円寺駅) 原作:石牟礼道子『苦海浄土』より 脚本:砂田明 主演:川島宏知 前売・予約:2000円、当日:2500円 <https://peatix.com/event/5060658> 「天の魚」プロジェクト FAX03-3312-1398 y-kbt@nifty.com (久保田)

映画「メモリードア」特別無料上映会

10月10日(土) 9:30〜12:00 J:COMコール田無多目的ホール(田無駅) 加藤悦生監督作品・映画上映と監督トークセッション 「メモリードア」上映実行委員会 090-4420-3644 f.624@jcom.home.ne.jp



右: 女川町に震災遺構として残る津波で破壊された交番。2026年7月14日  
左: 福島第一原発敷地内は撮影禁止。撮影可能な資料館内の映像の前で。防護服の着用等はなく、任意で対策をした。2026年7月13日

東日本大震災から15年が経過しました。この節目に、東北の被災地を訪れる会派視察を行い、各県庁や現地の方々から復興の歩みと今なお残る問題、課題を伺いました。「家族、住まい、まち、何もかもが奪われたあの日」から、諦めずに進んできた15年の復興の重みを感じ、今後の災害対策に活かす視察となりました。

また、女川町のように防波堤ではなく高台移転と、「傾斜による防潮」による海が見えるまちづくりを市民参加で選んだ地域もあり、住民主体でまちをつくるプロセスこそが防災まちづくりの原点であると再認識しました。

福島では東京電力廃炉資料館と福島第一原発を訪れ、原発事故の影響が残る地域と廃炉作業の現場を視察しました。

家に戻れない区域が今なお存在し、避難指示が解除された地域でも住民の帰還は1〜2割ほど。廃炉までといったどれだけの道のりを要するのか、デブリ本格回収への見通しは立たないまま、それでも連日作業にあたる人々、汚染水の保管にも膨大な土地が必要で、生活者ネットワークは、ネット設立時から原子力の平和利用という欺瞞を問い、震災以前から原発震災を問い、脱原発を主張してきましたが、地震大国である日本が、原発に依存し続けることの危うさを改めて痛感しました。国は原発回帰に舵を切り始めていますが、核廃棄物処理への道筋も見えない中、エネルギー政策の大転換を図るのは政治の責任です。

福島県内では余剰地や、森や山を伐採して、太陽光パネルがあちこちに設置されています。水素エネルギーの現場も視察しました。再エネ推進にはなるものの、メガソーラーの弊害も否定できません。福島原発の電気を使ってきた巨大エネルギー消費地である東京都だからこそ国に先駆けて省エネ、再エネへのシフトを進める責任があると強く感じました。福島で見た廃炉作業の厳しい現実を胸に刻み、引き続き再エネ拡充に取り組んでいきます。

東京・生活者ネットワーク

都議会REPORT

東日本大震災から15年  
被災地視察報告

東京・生活者ネットワーク都議会議員  
岩永やす代 [国分寺市・国立市]

宮城県石巻市の大川小学校では、愛娘を亡くされたご遺族の語り部のお話を伺いました。学校の裏山へ避難していれば助かったかもしれないという無念さと、同じ悲劇を繰り返さないために語り続ける親としての覚悟に胸が締めつけられました。ハザードマップがあっても、平時からの話し合いや実践的な訓練がなければ命は守れません。

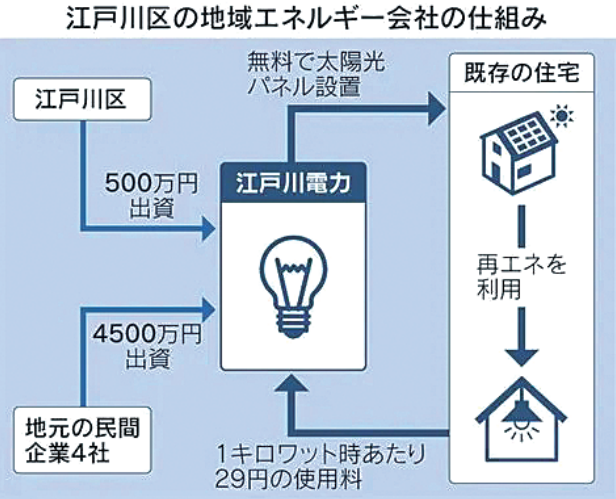
岩手県宮古市田老では、津波で骨組みだけになった「たろうホテル」で、語り部の方のお話を聞くことができました。重なる津波の経験から、海と共に生きる覚悟を持ち暮らしてきました。津波が来るまでの時間稼ぎに有効な防波堤を、復興まちづくりでも選択した田老。津波の経験から地域全体で防波堤を整備し、全ての道路が山へ通じるまちづくりを進めてきた田老でさえ「想定外」の事態は起きました。

までの時間稼ぎに有効な防波堤を、復興まちづくりでも選択した田老。津波の経験から地域全体で防波堤を整備し、全ての道路が山へ通じるまちづくりを進めてきた田老でさえ「想定外」の事態は起きました。

た。想定外をも見据えた避難訓練を繰り返す行方防災教育が、東京の子どもたちにも必要です。

また、女川町のように防波堤ではなく高台移転と、「傾斜による防潮」による海が見えるまちづくりを市民参加で選んだ地域もあり、住民主体でまちをつくるプロセスこそが防災まちづくりの原点であると再認識しました。

写真はイメージ。2030年度を目途に全区に855戸の  
パネル設置をめざす



江戸川電力は、区民と行政、地域企業が一体となって生まれた「地域電力会社」だ。江戸川区の「ゼロカーボンシティ」実現に向け、区のプロポーザル(公募)を経て2025年12月に誕生。江戸川区と地域の企業が共同出資して実現したこの江戸川電力は、東京23区で初となる地域エネルギー会社で、地域住民の自宅の屋根を借り無料で太陽光発電パネルを設置、生まれた電気を安定した価格で供給している。

(資料提供:江戸川電力株式会社)

江戸川区に  
江戸川電力株式会社ができた！

江戸川・生活者ネットワーク  
ワーキンググループ  
伊藤ひとみ

江戸川区では、2023年に区長が「2050年カーボンマ イナス宣言」を表明。同年に「気 候変動地域連携課」が新設され、太陽光パネルの設置に対し補助 金もスタートさせます。翌 2024年4月には、松江・船堀 地区の自治会町内会主催の「地 域脱炭素勉強会」が始まり、以降 2年間で8回のワークショップ を開催してきました。同時に、区 と共同出資する事業パートナー を募り、2025年12月に出資 金5千万円の「江戸川電力株式 会社」が設立されたのです。

江戸川区の出資額は10%の 500万円。住宅への太陽光発電 設備を無料設置し、既存の電力 会社より安い料金(キロワット29 円)で電力を供給するPPA事 業を進め、エネルギーの地産地消 を創出し、区内経済を好循環さ せるとともに2050年カーボ ンマイナスの実現を図っていく としています。

市民／電力会社／行政がつな がる 電力自給率アップから 始めよう

江戸川・生活者ネットワー クの 環境部会では、早速「地球温暖 化・気候危機をとめる！ー脱炭 素をすすめる持続可能な社会をつ くる」をテーマに、「江戸川電 力株式会社」代表取締役・肥沼直 樹さんを招いての学習会を開催 しました。

肥沼さんは、原発事故で仲間 を失った経験から「原発に頼らな い再生可能エネルギーを広めた い」と語り、目標として2030 年度までに855世帯へ導入、将 来的には1万户をめざしたいと 展望されました。当面は戸建てが 対象だが、そのうち集合住宅や区 内事業者でも再エネを利用し、防 災面でも安心な地域にしていき たいと、熱い思いを 伝えてくれました。

気候変動地域連 携課では「地域脱炭素勉強会」を 発展的に解消し、形を変えて継 続しています。今年度は「つな がるえどがわ未来会議」として新 たに健康や防災にもテーマを広 げ区民の再エネに対する意識を 深める取り組みになっていま す。そこに積極的に参画しなが ら、地域の電力自給率を上げる 行動を共に進めていきたいと思 います。

(写真:上)江戸川電力会社の 設立に尽力された皆さん。 右は区議の伊藤ひとみ (写真:左)江戸川ネット環 境部会が開催した学習会「地球 温暖化・気候危機をとめる!」。 ゲストに、江戸川電力株式 社代表取締役・肥沼直樹さん を招いての学習会。5月30日

編集後記/モノクロームの小冊子「荒れ野の40年」を久々に手にする。ドイツ連邦共和国ヴァイツゼッカー大統領が1985年5月8日、ドイツ無条件降伏の日から数えて40年にあたり行った演説。「過去に目を閉ざす者は、現在にも盲目となる」「若い人たちにお願いしたい。他の人々に対する敵意や憎悪に駆り立てられることのないように」の、それだ。東西冷戦回避に寄与し、統一ドイツを成し遂げた政治家であり、過去を克服し今と未来を考える政治家であった。対して今夏の高市首相の言からは「反省」の言葉は消え、「非核三原則は堅持されている。が、今後は予断しない」である。国民を愚弄し分断をあり、国会を軽視し、社会を構成する基軸である民主主義を破壊してはばからない。私たちの社会は、そういうリーダーを自ら生み出してしまったのだ。それでも私たちは、ライプリーポリティクス(生活者の政治)の必然を疑わないし、これを実践するものとして在り続けたいと強く思う、敗戦後81年の夏。(加藤)

「生活者通信」の購読者を募集 ●定価:年間1000円

【お申し込み方法】郵便振替をご利用ください(手数料ご負担ください)。振り込みが確認され次第、「生活者通信」をお届けします。 お名前・ご住所・〒番号・電話番号・開始月を明記、口座番号 00130-3-18417 加入者名「東京・生活者ネットワーク」